

若竹

第八十二号



第二十三回 慰問神楽

愛媛県神道青年会

事務局 〒793-8555

愛媛県西条市西田甲797 石鎚神社 内

TEL 0897-55-4044 FAX 0897-55-7242

URL <https://www.ehimeshinsei.net/>



愛媛県神道青年会

検索



新年度の御挨拶

愛媛県神道青年会

会長 野口 貴令



先ず以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を御慶び申し上げると共に、各御社頭の御隆昌と皆様方の御多幸を御祈り申し上げます。また諸先輩方には常日頃より、愛媛県神道青年会に対し格別の御指導御鞭撻を戴きまして、諸事運営出来ております事を衷心より篤く御礼申し上げます。

さて、改めまして本年一月一日に発生した令和六年能登半島地震にて、能登半島を中心に甚大な被害が発生致しました。犠牲になられた方々の御霊の平穏と被災された

方々の一日も早い日常生活への復帰を心より御祈り申し上げます。当会と致しましては、神道青年全国協議会を通じて速やかにブルーシートの提供等の行動をおこして参りました。また、昨年度に福島県にて行った東日本大震災被災神社復興支援活動で戴いた御縁を元に、六月二十七日には能登半島で被災された神社への社殿奉納支援活動を行うつもりで計画を立てている所で御座います。

近年、全世界的にも地震や異常気象等の自然災害が多発しております。当愛媛県に於いても皆様御承知の通り、四月十七日には豊後水道を震源とする地震が発生し、南予の一部地域では震度六弱が記録される程の揺れがありました。幸いにも地震規模の割に被害が少なく、揺れの激しかった地域でも燈籠や境内地の崖に多少の損害があった程度と聞き、ほっと胸を撫で下ろしております。南海トラフ大地震が近いと叫ばれる中、益々先輩方との縦の繋がりと会員同志の横の繋がりを密にし、当会内や近隣単位の、神道青年四国地区協議会は元より、全国の同志との交流を図って斯界相助の理念で以て活動をして行きたいと考えております。

また当会に於いては、私が事務局長を務

めておりました令和元年には、名簿上の会員数は八十名程でした。しかしながら、令和六年現在は名簿上の会員数は六十名程。再来期、つまり令和九年頃には名簿上の会員数でも四十名程度となる予定で急速な会員減少が進んでいます。現役員にも再来期卒会者が多く、今期のうちに二十代から三十代前半会員の事業参加を積極的に働きかけ、将来の愛媛県神道青年会の維持発展へ努めて参りたく思う次第です。

今後とも叱咤激励は元より、御指導御協力の程宜しく御願ひ致します。



会員の力を結集し青年会を盛り上げていきましょう。

新年研修会並びに互例会



【報告者】
愛媛県神道青年会 会員
伊予郡 三島神社
権欄 宜 阿部 玲子

令和六年一月二十五日に道後にぎたつ会館に於いて神道青年会新年研修会並びに互例会が開催されました。研修会はウエブ会議方式で行われ、八幡神社 権宜 清家 貞文先生を講師として御迎えし、御鎮座千三百年の記念事業でクラウドファンディングを活用し、社務所の改築と裏参道のバリアフリー化に挑戦された御経験をもとに寄付と支援というテーマで御講演いただきました。



近頃良く耳にするクラウドファンディングという言葉ですが、不特定多数の人々から広く資金を募る方法として選択される取り組みのひとつで、インターネットを紹介する資金調達手段に加わる形で普及し、ますます身近な存在となつていきます。当日会場に集まった会員の中にも、何らかのプロジェクトを支援したことがあるという人が多数おりました。クラウドファンディングが寄付や支援の手段として一般的に受け入れられ、選ばれていることが窺えます。講演では、クラウドファンディングの種類や仕組みを学んだあと、メリットだけでなくデメリットも御紹介いただきました。実際に八幡神社の社務所改築プロジェクト

トの舞台裏を窺えるということ、各自が今後の参考にしておくべく熱心に耳を傾けました。私がクラウドファンディングという言葉を知ったのは、平成二十三年の東日本大震災の復興支援を目的とした寄付型のクラウドファンディングが世間に広まった頃でした。被災し倒壊した燈籠や大鳥居を修繕したいけれど、神社を支える地域や氏子も皆被災しており、再建費用をどのようにして賄うのだろうかというような問題を解決するべく、新しい支援の形として注目されていたのです。現在では数多くのプラットフォームが運営されており、災害時の建物の改修や修繕は勿論、環境保全活動や新製品の開発など、様々なプロジェクトが支援をうけられるようになっていく。目的も公的なものから最近はおくく私的なものまで多岐にわたります。こうした動きを見てきて、私の中では、クラウドファンディングで目標の金額を支援いただくのには御寄付をしてくださいな方々に委ねる部分が大きく、言うなれば人任せであることが少し気掛かりでした。プロジェクトを立ち上げる側は、支援者頼みの受動的な立ち位置であり、成功するかどうかは待つてみるまで分からない。そんな印象をずっと持っていたから不思議です。確かに、やってみるとどうなるか分からない。というのは間違いのない事実だと思えます。しかし、今回の講演を聞いて、プロジェクトを成功させたいという自分の熱意をいかに支援者の皆さまにお伝えするか。また、自身が一番の支援者だという気持ちも忘れず最後まで情熱を保ち続けることがとても重要だと学びました。八幡神社の記念事業ではインターネットにあまり馴染みの無い方に向けて紙のチラシ



八幡浜から講演していただいています



今後の青年会に乾杯♪



庁長からの御挨拶を頂戴いたしました



新年正式参拝
令和6年1月25日 於 愛媛縣護国神社

研修会を終えると、会場を移して互例会に参加しました。懇親会に先立ち、令和六年の元日に発生した能登半島地震により犠牲となられた方々に哀悼の意を表し、全員で黙祷を捧げました。会長からは、北陸地方、特に被害が甚大であった石川県の青年会の皆さんと今後も連携し、支援を続けていくとの頼もしいお話がありました。また、懇親会への参加がおそらく三、四年ぶり、お喋りしながら楽しい時間を過ごすことができても嬉しかったです。最後に、能登半島地震で被害に遭われた皆さまが一日でも早く平穏な生活に戻られますように心より御祈り申し上げます。本日学んだクラウドファンディングが復興の一助となりますように願っています。



興味津々に学んでいます

チャレンジすることで結果は出てきますね。

東日本大震災被災神社復興支援事業



【報告者】
愛媛県神道青年会 副会長
松山市 日招八幡大神社
瀬川 玉井 正祥

このたび様々な御縁があり、大工の池田忠生さん(大洲市・池田工務店)が行っている東日本大震災復興支援に参加する機会を得ました。池田さんはこれまでにも複数の神社に社殿を奉納しておられる方です(愛媛県神社庁報六二一号でも紹介)。

今回は、福島県いわき市久之浜町鎮座の見渡神社の社殿奉納に青年会として加勢することにになりました。見渡神社へは既に令和二年に社殿を奉納されていたのですが、令和四年三月の福島沖地震で社殿が傷んでしまったために一度大洲に運ばれ、修繕して再び奉納することになったという経緯があります。池田さんは御自身の年齢も考慮して、今回の奉納がひと区切りと考えられていました。

社殿の修復には木工と鍔金(屋根)があり、それらが完了したのが令和五年秋のことでした。先方の宮司様はいつでも構わないとのことでしたが、池田さんの想いは氏子さんが初詣できるように間に合わせたいというものでした。というわけで年内奉納を目標に、青年会としていつなら動けるかを画策することになりました。

季節柄、秋祭り・新嘗祭・大麻頒布・新年準備...と段々忙しくなっていく頃です。様々調整を重ねて十二月中旬に日程を決め、野口会長、後藤理事、玉井の三名で参加することになり、我々は社殿運搬組(池田さん・玉井)と現地合流組(野口・後藤)の二手に分かれて行動することになりました。

運搬組は軽トラックに社殿を載せ、愛媛から徳島までは陸路(約三時間)、徳島から東京有明までフェリー(約十八時間)、有明からいわき市まで陸路(約三時間強)という行程です。合流組は空路で東京、鉄路と陸路で現地を目指します。

十二月十二日(火)早朝、私は池田さんと合流し徳島を目指します。当日は途中濃霧もある生憎の雨模様でしたが予定通り昼には徳島港に着きフェリーに乗船。ここから翌五時まで約十八時間の船旅です。出港直後は穏やかでしたが、沖合に出るとこの日は波が高めでそれなりに船内も



フェリーに乗船、荷台の社殿が目立ちます



運搬用の軽トラに社殿を積み替え

揺れ、夜九時前には早々と就寝することになりました(沖合に出ると携帯は圏外です)。十二月十三日(水)ほぼ予定通りの朝六時に有明へ到着し、いわき市を目指します。首都高を軽トラで走るのは中々緊張するものです(苦笑)。小一時間ほどで常磐道に入り、小休止(運転も交代)しながら目的地を目指し、十時過ぎに無事到着することが出来ました。

一方の現地合流組は、十二日に空路で東京に移動、まず台東区の下谷神社を参拝しました。下谷神社の阿部明徳宮司は、東日本大震災の復興支援を長らく行っており、その中で社殿奉納にも取り組まれています。その様子を池田さんは偶然テレビで目にし、御自身も支援を始められたという経緯があったのです。今回の活動にも御協力いただき、阿部宮司を通じて福島県神道青年会や下谷神社有志の方にも声がなされました。野口会長と後藤理事は、参拝や挨拶の後、鉄路でいわき市へ移動、現地では福島県神青の面々と夕食を共にし、交流を深めました。



福島神青をはじめ当日参加する面々と懇親を深めて乾杯!



途中休憩ではどこまで運ぶんですかと声をかけられることも

福島まで社殿を届けてきました。



鎮守の社に戻り、社殿の雰囲気が一気に変わります



大勢で引っ張り持ち上げて一気に運びます



元の土台に奉斎されました

さて、見渡神社には高木美郎宮司や氏子総代の方々、福島県神青、下谷神社阿部宮司と有志の方々に我々と大勢参集するに至り、挨拶もそこそこに社殿を皆で担いで無事に奉納することが出来ました。長い旅路を共にした社殿でしたが、荷台から境内地に納められるとその姿が一変しました。高木宮司によると当日朝、毎日お詣りしている氏子の方



見渡神社に無事到着、縄を解きます

に社殿が戻ってくることを伝えたところ大変喜ばれたとのこと。津波の影響で周囲にあった十数世帯の家屋はすべて移転したそうですが、絶えることなく続いている氏神様への想いの一端を知り、胸が熱くなりました。

その後境内の清掃を行い、参加者の面々で昼食を頂戴し、諏訪神社(高木宮司の本務社)を参拝後、それぞれ帰路につくことになりました。合流組は鉄路を経て東京に戻り、最終便で松山に。運搬組は、荷台の軽くなった軽トラで再び常磐道・首都高を経て、夜六時前に有明に到着、フェリーに乗り込みました。乗船後に池田さんとビールで乾杯し、ここまでの労をねぎらいつつ夕食をとり、行きよりも幾分リラックスして約十八時間の船旅を過ごしました(波も穏やかでした)。

東日本大震災から今年で十三年。私は初めて福島に行く機会を得ました。普段会社勤めもしていますし年末も近づき普段よりも忙しい時期でしたが、何度か池田さんと打ち合わせていく中で「百聞は一見に如かず」と強く思うようになりました。

見渡神社はその名の通り海に向かって鎮座する神社ですが、震災後は従来よりも高い防波堤が建設され海面は見え



帰りのフェリー内で池田さんと直会!



皆様誠にお疲れさまでした

ず、太平洋独特の強い波音が聞こえるだけとなり、神社一帯の家屋も移転し野原が広がるばかりでした。しかしながら、毎日参拝する方が居る、祭事を絶やさず奉仕する神職や氏子総代が居られました。もし自分が被災した時、神職として何が出来るか、何を為すべきか深く考えさせられる機会になりました。

おわりに、元日に発生した令和六年能登半島地震を受けて、池田さんは再び社殿を製作されています。当会も社殿の奉納に参加することになっています。

遠く離れていても思いは伝わります。

広島県青年神職会創立七十周年記念大会



【報告者】
愛媛県神道青年会理事
西条市 石岡神社
榎 宜 越智 仁美

令和六年二月十三日(火)午後二時より広島県広島市ホテルメルパルク広島に於いて、広島県青年神職会創立七十周年記念大会が執り行われました。愛媛県神道青年会からは野口会長をはじめ、他五名が出席しました。記念式典では、広島県青年神職会会長、御来賓からの挨拶がありました。



式典終了後は、記念講演会があり、記念講演会講師として、株式会社中国放送アナウンサー横山雄二先生が講演してください。演題は「伝える力〜これからの神主に

求めること〜』についてお話されました。

様々な経験をお持ちの横山先生に人に伝える方法を教えていただきました。アナウンサーという職種と神職としての職種は全然違いますが、学ぶべきことが多かった講演会でした。

ネット社会の今、昔に比べて情報発信がしやすくなっていることで、SNSなどを使って情報発信することで、神社、神道について知ってもらおう。ほとんどの人が、身近に神社という当たり前の存在があるにも関わらず、神社のこと、神職のことを知らない人が多いのが現状です。心に残った言葉が、「一番大事なことを最初に伝える」、「百点を目指さず、失敗を繰り返して色々試してみる」との言葉

を聞いて、私も神職として、氏子の方に向けて情報発信の努力をしていこうと思えました。素敵な講演ありがとうございました。

講演終了後は、祝賀会でした。広島県青



年神職会神楽同好会による芸北神楽「鍾馗」を見ることができました。参加されました皆様と親睦を深めることが出来、盛大に執り行われました。この度は誠にありがとうございました。



時代の変化に取り残されないように発信していきましょう。

令和五年度 親睦交流会 松山

【報告者】

石鎚神社

巫女 野村 綾奈

巫女 小西葉留華

去る二月二十九日、親睦交流会が行われました。
当初は、内子町にあるソルファ・オダスキイゲレンデでの交流会を計画しておりましたが、今季は気温も暖かく雪解けが早かったため、残念ながらスキイの開催は中止になりました。しかし交流会は開催したい！という会員・関係者方からの声もあった為、せつかくの機会でもあるため、松山市内にあるラウンドワンで開催しました。
まずは、チーム対抗のバレー対決を行う準備運動をしましたが、日頃の運動不足うんぬん等聞こえるか聞こえないくらいの声で肩で呼吸されている先輩もおられました(笑)



中にはバブルサッカーでお互いの威信を文字通りの意味でぶつかり合っつて親睦を深めていました。



卓球・ローラースケートで全身を動かし、ゴーカートで日頃の運動テクを披露するなど有意義な時間を過ごし、親睦を深めることが出来たのではないかと思います。
今回の参加者は十名と少人数でしたが、これからもより一層楽しい親睦会になるよう次回も多くの方の御参加を宜しく御願いたします。



楽しく交流できました♪



楽しく親睦を深めることができました♪

令和
五年

神道青年全国協議会 中央研修会



【報告者】
愛媛県神道青年会 会員
東温市 川上神社
宮司 野口 秀文

去る令和六年三月七日・八日、北海道札幌市にて令和五年度神道青年全国協議会中央研修会が開催され、全国から約三百名が集まるなか、当会からは野口貴令会長・田窪大朗監事・柳原永祥監事・私の四名が参加しました。

研修は「未来への礎」青年神職に伝へた「こと」を主題として三題の講演を中心に行われました。

第一講では作家・ジャーナリストである門田隆将先生より「私たちは『国家の難題』をどう考えるべきなのか」と率直に題してお話いただきました。令和四年四月に開始されたロシアによるウクライナ侵攻は国際秩序に大きな変容をもたらしました。不確実性の高まる国際社会において我が国はどのような地位にあり、どのような道を辿ろうとしているのか。持ち時間も足りないのか。とばかりにさまざまな事例を挙げて、「国家の難題」がいかに現実的かつ差し迫ったものであるか



を語る様子は、弥が上にも自らの役割に対する覚悟を新たにさせられるものでした。第二講では上川大雪酒造代表取締役社長の塚原敏夫先生に「共感と共創・地域連携の力で道を拓く」と題し、日本酒を活用した地方創生についてお話しいただきました。大雪山の天然水と北海道産の酒造好適米で造る日本酒を「民芸品」になぞらえて町全体が当事者となるストーリーを作り、地域そのものをブランド化して価値を向上させる。地方創生の手本ではないでしょうか。また北海道上川郡上川町に酒蔵を造るべく、休止していた三重県の酒蔵を移転したという設立の経緯にも興味深いものがありました。

第三講では、平昌オリンピック銅メダリストでありカーリングチーム「一般社団法人人口コ・ソラーレ」代表理事の本橋麻里先生より、「ゼロからのチーム作り」常呂から世界へ」と題し、御自身の経歴を振り返りながら、現在に至るまでの価値観の変化や周囲の環境の変化を、契機となったエピソードを交えてお話しいただきました。中でも、強豪スウェーデンの選手たちが出産育児をしながらトリノ、バンクーバーと連覇した姿に感銘を受け、「カーリング人生も自分の人生も楽しめるようになりたい」と強く思っ

たというお話は特に印象的でした。いずれの講演も意義深く、また研修会全体を通じて主管を務める北海道神道青年協議会の方々の熱意や思いやりを感じられ、非常に充実した二日間となりました。来年は神宮研修会として伊勢の神宮での開催となります。その特別な機会をより多くの方々と共有できるよう期待します。



たくさんの方のことを学ぶ機会となりました。



たくさんの方に聞いていただいています

令和六年三月二十二日(金)今治明德短期大学公開講座にて慰問神楽を執り行いました。観覧者数八十三名と多くの方々にご来場いただきました。世界最古のオーケストラ



【報告者】
愛媛県神道青年会 理事
西条市 石岡神社
榎 宜 越智 仁美



最後は観覧の皆様へ楽器体験の場を設け、実際に楽器に触れたり、吹いたり、また巫女さんとの記念撮影をされたりと、皆様和気あいあいと楽しまれておりました。



として我が国に古くから伝わる雅楽。演奏を聞く機会がなかなかない為か、皆様興味津々で聞き入られておりました。
演目は、まず初めに雅楽演奏「平調音取」、「越殿楽」、「五常楽急」、「陪臚」を演奏し、次に石鎚神社巫女による「浦安の舞」、そして伊豫神楽による舞楽、「十番 式三番舞の口明之事」、「二十五番 神体細女之神楽舞之事」、「三十四番 妙剣之舞之事」を演舞いたしました。

今回の慰問神楽は、青年会での演奏者が少なかった為にOBの先輩方にお願ひしなければならぬ状態でした。私自身初参加な上にまだ演奏できるまでではなかったので、お手伝いのみでしたが、次回までには少しでも上達しておきたいです。現在、楽器演奏のできる会員が少ないので、慰問神楽の開催が危ぶまれております。青年会会員の皆さんも雅楽を始めたい方が多いかでしょうか。



楽しんで体験されています

是非会員の皆さんも楽しく演奏してみませんか？

神道青年全国協議会

創立七十五周年記念大会 第七十五回定例総会報告



【報告者】
愛媛県神道青年会 理事
松前町 高忍日賣神社
権禰宣 後藤 正明

神道青年全国協議会(以下、神青協)の創立七十五周年記念大会が東京都港区の明治記念館で四月二十三日に開催されました。

神青協は皇室国家の護持と神道興隆の精神を受け継ぎ、民族精神の回復、道義国家の復興を目標に、青年神職の信念と決意を結集して昭和二十四年に創立され、コロナ禍前のように会員が一堂に会して盛大に開催することができませんでした。



記念式典に先立

ち、物故者慰霊祭及び記念講演が行われました。

(株)虎屋代表取締役 黒川光博氏を会長の黒川光博氏を講師に迎え、「おいしい和菓子を楽しんで召し上がって頂く」と題して講演を賜りました。



室町時代後期には京都で御所の御用を務め、明治維新で東京へと進出、「とらやの羊羹」で有名です。今回の演題は同社の経営理念であるとのこと。「おいしい和菓子」は使命であり、「喜んで召し上がって頂く」ためには職人の思いを売り子ひとりひとりが大切にしてお客様に届けなければとの思いが込められています。講演の中で黒川氏は御自身の経営を振り返り、事業規模拡大と業務細分化で和菓手に触れない社員が増加したことに危機感を

覚え、繁忙期には事務職員も販売や製造の現場に携わらせて全社員が和菓子に触れる機会を作ったこと等述懐されました。また、「歴史が古いからといって現在を保証してくれる訳ではない。時代時代にどう生き残っていくか。迎合する訳ではないが、古くからの菓子でもその時代の人のおいしく食べてもらえなければ菓子ではない」と、同社の歴史について触れながら語られました。さらに、どのような時代にあっても「何事もオープンに。誠実・正直・公平・公正・謙虚で、自分に嘘をつかずコツコツやることが大事」であり、「歴史・品質もあるかもしれないが、働いている人の言動・知識・品格・人間性」をお客様に理解してもらうように心がけることの重要性を説かれました。そして、会社を評価するのはまず「人」であり、「人を大切にすること」が経営理念の大前提であると強調されました。

昨今、ホスピタリティという言葉をよく耳にします。相手への思いやりの言動、丁寧なおもてなしの気持ちのことですが、提供する側、される側両者が喜びを共感し、共に喜びを分かち合う点が単なるサービス業務と異なります。我々神職にとって神様

本質を理解して行動していきましょう。

への奉仕は当然のことです。しかし、参拝者に接する際のおもてなしの心は教化にもつながる大切なことです。今回の講演を拝聴して認識を新たに、日々の奉仕に活かしていこうと感じました。

その後、記念式典に移り神社本庁統理代理の田中恆清総長や久邇朝尊神宮大宮司等の来賓に多数御出席賜わり、大鳥居会長は式辞の中で、周年の主題「起点〜本質を継ぐ〜」を掲げ、「変貌する時局に対処し、永遠なる伝統の生命を旺にし以て国家再興のため、強力なる運動を展開せんことを期す」と宣言されました。続いて河崎智洋副会長による記念事業の報告が行われました。

記念祝賀会は、彬子女王殿下の台臨を仰ぎ開催されました。彬子女王殿下は御言葉の中で、コロナ禍で神青協がウェブ会議システムによる研修会や講演会等を展開したことに触れられ、同会の活動が全国の神社



の発展へと繋がることに期待を寄せられました。また、鏡開きが行われ、七十五周年の佳節に相応しい盛大な会となりました。

多くの情報に溢れる現代、我々青年神職は自身の起源たる「起点」と守るべき「本質」を再認識し、歴史の重みを胸に伝統を振り返るとともに次代へつなげていくために行動しなければならぬと改めて強く感じた記念大会となりました。

翌二十四日には、神社本庁大講堂にて第七十五回定例総会が開催されました。

大鳥居良人会長、田中恆清神社本庁総長の挨拶の後、定例表彰式を執り行い、続いて議案が審議され、全議案が承認されました。

総会後には広報委員会・神宮啓発委員会からの事業報告、北陸地区から能登半島地震の被害状況についての報告会が行われました。

また、神宮におかれましては長くも天皇陛下から式年遷宮の御聴許を拝されたことを受け、「式年遷宮のこころ」を守り伝える委員会」が設置されました。

神道青年全国協議会創立75周年記念大会



神道青年全国協議会 創立七十五周年記念大会 令和6年4月23日 於 明治記念館

ウェブでも参加することに意義があります。

令和五年度 会務報告

令和五年

起 令和五年 四月 一日
至 令和六年 三月三十一日

四月 二十四日 神道青年四国地区協議会

第一回 役員会

【高知県 セリーズ】

五月 三十一日 第一回 役員会

【石岡神社】

六月 八日 神道青年四国地区協議会

第二十九回定例総会研修会

【愛媛県 今治国際ホテル】

十六日 第二回 役員会

【湯神社】

七月 一日 会報「若竹・第八十号」発刊

二十四日 令和四年度監査会

【湯神社】

八月 三日 第三回 役員会

【石錠神社】

九日 第五十二回定時総会・懇親会

【リジエール松山】

二十二日 神道青年全国協議会

二十三日 令和五年度 夏期セミナー

【神社本庁】

九月 五日 神道青年四国地区協議会

第二十三回神道行法錬成会

【高知県 大川上美良布神社】

六日 神道青年四国地区協議会

第二回 役員会

【全】

十五日 参拝啓発ポスター発送作業

十九日 第四回 役員会

【愛媛県神社庁】

十月 二十一日 第五回 役員会

【高忍日賣神社】
【ウェブ開催】

十一月 二十七日 第六回 役員会

【吹揚神社・ウェブ開催】

十二月 四日 神道青年四国地区協議会

親睦会・顧問会

【徳島県 藍の館なつめ】

第三回 役員会

【徳島県 大麻比古神社】

十二〜十四日 東日本大震災被災神社復興支援事業

【福島県 見渡神社】

十九日 第七回 役員会

【ウェブ開催】

令和六年

一月 一日 会報「若竹・第八十一号」発刊

二十五日 第八回 役員会

【にぎたつ会館】

二月 二十九日 会員親睦研修会・交流会

三月 七日 神道青年全国協議会

【ラウンドワン松山】

三月 八日 令和五年度 中央研修会

十二日 第九回 役員会

【北海道 札幌プリンスホテル】

二十二日 慰問神楽

【ウェブ開催】

十二月 二十二日 慰問神楽

十二月 二十二日 慰問神楽

【今治明德短期大学】

●その他、日程等は役員会にて議案審議

コロナ禍を乗り越え青年会事業を執り行ってきました。

愛媛県神道青年会 令和五年度一般会計歳入歳出決算書

自 令和5年8月1日 至 令和6年3月31日

歳入の部

単位：円

Table with 5 columns: 項目, 本年度予算額, 本年度決算額, 増減(△減), 付記. Rows include 会費, 助成金, 寄付金, 雑収入, 繰越金, and 歳入合計.

歳出の部

単位：円

Table with 5 columns: 項目, 本年度予算額, 本年度決算額, 増減(△減), 付記. Rows include 会議費, 研修教化, 事業費, 広報費, 事務費, 備品費, 交通費, 慶弔費, 分担費, 雑支出, 予備費, and 歳出合計.

歳入合計 ￥3,186,951 歳出合計 ￥2,701,856 差引残高 ￥485,095

愛媛県神道青年会 会長 野口貴令 提出

令和6年5月27日

愛媛県神道青年会 令和五年度特別会計(基金)

Table with 3 columns: 項目, 金額, 付記. Rows include 通常貯金, 繰入金, and 合計.

単位：円

愛媛県神道青年会 会長 野口貴令 提出 令和6年5月27日

愛媛県神道青年会 令和六年度一般会計歳入歳出予算書

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

歳入の部

単位：円

Table with 5 columns: 項目, 前年度予算額, 本年度予算額, 増減(△減), 付記. Rows include 会費, 助成金, 寄付金, 雑収入, 繰越金, and 歳入合計.

歳出の部

単位：円

Table with 5 columns: 項目, 前年度予算額, 本年度予算額, 増減(△減), 付記. Rows include 会議費, 研修教化, 事業費, 広報費, 事務費, 備品費, 交通費, 慶弔費, 分担費, 雑支出, 予備費, and 歳出合計.

歳入合計 ￥2,730,000 歳出合計 ￥2,730,000 差引残高 ￥0

愛媛県神道青年会 会長 野口貴令 提出

令和6年5月22日

御協力いただき感謝申し上げます。

令和六年度 活動計画

令和六年

- 四月 二十六日 神道青年四国地区協議会
第一回 役員会
【ウェブ開催】
- 五月 十二日 第一回 役員会
【ウエブ開催】
十七日 令和五年度監査会
【湯神社】
二十二日 第二回 役員会
【ウエブ開催】
- 六月 二十七日 第五十三回定時総会・懇親会
【リジエール松山】
十三日 神道青年四国地区協議会
第三十回定例総会研修会
【徳島県・ワシントンプラザホテル】
- 七月 十七日 第三回 役員会
【ウエブ開催】
十九〜二十日 神青協創立75周年記念事業 北方領土の碑祭典
【根室】
- 八月 二十六〜二十七日 令和六年能登半島地震復興支援事業
【石川県・重蔵神社】
七月 一日 会報「若竹・第八十二号」発刊
【石川県・重蔵神社】
八月 二十二日〜 神道青年全国協議会
【神社本庁】
二十三日 令和六年度 夏期セミナー
【未定】
- 九月 五〜六日 神青協創立75周年記念事業 竹島之碑祭典
【隠岐の島】
十三日 神道青年四国地区協議会
第二十四回神道行法錬成会
【香川県・万葉会館】
神道青年四国地区協議会
第二回 役員会
【全】

令和七年

- 九月 参拝啓発ポスター発送作業
【未定】
 - 十月 第五回 役員会
【未定】
第六回 役員会
【神社本庁】
 - 十一月 十九日 神青協臨時総会・顧問会
第七回 役員会
【未定】
 - 十二月 十日 神道青年四国地区協議会
親睦会・顧問会
【高知県】
第三回 役員会
【未定】
 - 一月 一日 会報「若竹・第八十三号」発刊
【東京方面】
二十七〜二十八日 研修旅行
【未定】
 - 二月 第八回 役員会
【未定】
 - 三月 第九回 役員会
【未定】
第十回 役員会
【未定】
 - 三月 十八日 神道青年全国協議会
【三重県・伊勢神宮】
十九日 令和六年度 神宮実習
【三重県・伊勢神宮】
- *（日時未定）
- 会員親睦研修会・交流会
移動社務所実証事業
慰問神楽
*時局問題への即応

●その他、日程等は役員会にて議案審議

経験のない事業にチャレンジしていきます。

第五十三回
定時総会並びに懇親会



【報告者】
愛媛県神道青年会 新会員
松山市 伊豫豆比古命神社
権欄宜 長曾我部勝成

去る五月二十七日(月)午後五時、リ
ジュール松山に於きまして、野口貴令会長
以下十一名の出席のもと、愛媛県神道青年
会第五十三回定時総会が開催されました。
野口会長の挨拶の後、議長の出発が行わ
れ次いで議事に沿い令和五年度会務会計・
監査の報告、令和六年度活動計画・予算両
案についての報告、審議が行われました。

本年度の活動計
画の議事中的質疑
の際には令和六年
一月一日に発生し
た「令和六年能登
半島地震」にて罹
災した石川県輪島
市に鎮座する重蔵
神社に対し、福島
県神道青年会と合
同での復興支援事
業として、仮殿と



しての御社の奉
納作業支援を行
う旨の説明が行
われました。

全ての議事に
於いて参加者の
異議なく全件承
認の上、総会は
滞りなく進行さ
れ閉会となりま
した。

総会閉会后、
同所にて愛媛県
神社庁 庁長三輪田泰生様をはじめとする
四名の御来賓の方々にも御臨席を賜り、懇
親会が開催されました。

参加した会員同士で挨拶の機会を含めた
和やかな雰囲気での親睦を深めることができ
ました。

現代社会の移り行きを見ると、何事に関
してもデジタル化が進み、便利な世の中に
なったという意見がある反面、神道青年会が
活動の根源としている祖先を敬う心や自然
への感謝、美しい日本人としての心を持った
人々というのは徐々に減少しているように思
われます。諸外国の人々と交流する機会
の多い世の中になった現代だからこそ日本人ら
しき、日本の素晴らしさを理解して、後世に



繋いでいくということが、現代に生きる我々
青年神職の務めであると認識しております。
神道青年会の会員として若輩の身ではご
ざいますが、現役員・会員の皆様のみなら
ず、諸先輩方か
らも、この身に
吸収でき得る限
りの知識や教養
を御教授いただ
き、神道青年会
の活動に微力な
がらも貢献でき
る神職を目指し
ておりますの
で、今後とも何
卒御指導御鞭撻
の程宜しく御願
いいたします。

1年の節目で次に向かって頑張っていきましょう。

令和五年度 助成寄付御芳名

※順不同にて掲載させて頂いております

御助成

金 貳拾萬圓也

愛媛県神社庁 殿

御寄付

【東予】

金 壹拾萬圓也

石鎚神社

金 伍萬圓也

大山祇神社

金 参萬圓也

吹揚神社

一宮神社

伊曾乃神社

金 壹萬伍仟圓也

石岡神社

金 壹萬圓也

三島神社

大元神社

磐座八幡大神社

嘉母神社

三島神社

村山神社

三島神社

三嶋神社

高浜八幡神社

堀江神社

橘新宮神社

野間神社

白山神社

周敷神社

須賀神社

原八幡大神社

玉生八幡神社

三嶋神社

八幡神社

潮早神社

別宮大山祇神社

大西神社

熊野神社

網敷天満神社

綾延神社

矢矧神社

諸山積大明神社

姫坂神社

大井八幡大神社

八幡大神社

瀬戸八幡大神社

荒木八幡大神社

金 伍仟圓也

土居神社

石戸八幡神社

渦浦八幡神社

奈良原神社

神山神社

金生八幡宮

鉾前神社

生名八幡神社

保内八幡神社

橋八幡大神社

石土神社

徳威神社

宮内神社

千足神社

濱上神社

鶴岡八幡神社

瀧神社

弓削神社

藤原野原

矢野

平川

堀川

福海

浅田

高川

及川

田邊

菅邊

森正

田利

高捷

徹成

康英

宜徳

友規

浅徳

福徳

堀英

平規

泰彰

友規

宜徳

康英

高捷

徹成

康英

宜徳

友規

浅徳

福徳

堀英

平規

泰彰

友規

宜徳

金 参仟圓也

西條神社

八幡神社

多伎神社

金 貳仟圓也

伊豫豆比古命神社

金 参萬壹仟圓也

神社庁

金 参萬圓也

愛媛縣護國神社

伊佐爾波神社

金 貳萬圓也

神社庁

日招八幡大神社

嚴島神社

金 壹萬圓也

三嶋大明神社

桑原八幡神社

雄郡神社

浮嶋神社

忽那島八幡宮

勝岡八幡神社

金刀比羅神社

高忍日賣神社

松山神社

三島神社

波賀部神社

國津比古命神社

金刀比羅神社

伊豫稻荷神社

三島神社

生石八幡神社

八幡神社

還熊八幡神社

竹内出

原田

梯次

長嘗我部昭一郎

伊予支部

額田照彦

野口光比古

松山支部

玉井正保

柳原幸

大内正人

石丸剛司

高宮誠司

大宮信篤

相原信篤

武原信篤

山下信篤

山崎信篤

後藤信篤

正岡信篤

阿部信篤

武智信篤

大井信篤

星野信篤

高野信篤

中野信篤

小野信篤

玉井信篤

大井信篤

星野信篤

高野信篤

中野信篤

小野信篤

玉井信篤

大井信篤

星野信篤

高野信篤

青年会活動に御理解戴き、過分なる御厚意を頂戴致しましたこと、重ねて厚く御礼申し上げます。役員・会員一同

金、 三島神社	金、 参阡圓也	住吉神社	五十鈴神社	三島神社	稻荷神社	多賀神社	朝日八幡神社	物河内神社	五柱神社	高家八幡神社	三島神社	正八幡神社	八幡神社	伊曾能神社	櫛玉比賣命神社	三島神社	三島神社	三島神社	諸山積神社	阿沼美神社	天満神社	德威三嶋宮	金、 伍阡圓也	素鷲神社	金、 七阡圓也	高繩神社	金、 八阡圓也	三奈良神社	大宮八幡宮	船川神社	客王神社	日尾八幡神社	東雲神社	井手神社	湊三嶋大明神社
武智仁志殿	辻正明殿	二重分殿	宮正秀殿	榊山春明殿	堀智司殿	武智和一殿	佐伯孝弘殿	森東洋司殿	都子清明殿	玉井秀行殿	権名卓久殿	桑原盛雄殿	武市浅幸殿	井上貞次殿	高市俊幹殿	芥川幹朗殿	権名津佳子殿	武智將通殿	大内成保殿	武智成房殿	別府頼房殿	水地明彦殿	金、 壹萬圓也	玉井利幸殿	森正經殿	池田和剛殿	武智良昌殿	三輪純逸殿	田内朱美殿	横田知美殿	渡部定詔殿				

岡森神社	八幡神社	三瀧神社	由良神社	三島神社	宇都宮神社	太郎大明神社	満穂神社	鹿島神社	三島神社	金、 伍阡圓也	賀茂神社	三島神社	三島神社	天満神社	黄幡神社	三柱神社	三島神社	神社庁	三嶋神社	三島神社	総社大明神社	八幡神社	三島神社	大元神社	八幡神社	八幡神社	金、 壹萬圓也	八坂神社	神社庁	八幡神社	金、 参萬圓也	和靈神社	金、 七萬圓也	【南子】
寺谷秀彦殿	菊池史隆殿	笹岡千隆殿	赤松伸明殿	入江享朝殿	伊達文郎殿	佐々木克幸殿	菊池高徳殿	三池幸徳殿	上甲一則殿	松浦德基殿	越智荒侍殿	岡本武司殿	青木俊司殿	梅川康一人殿	一宮康一人殿	南宇和郡支部	和氣利雄殿	吉田充邦殿	森本隆夫殿	阿部康茂殿	神岡道明殿	井岡正博殿	清家貞宏殿	是澤邦久殿	常磐井守道殿	八西支部 八幡分會	都築芳憲殿	宇和支部殿	三輪田泰生殿	三輪田泰生殿				

御賛同の上御寄付を賜り深謝致します 会長 野口 貴令	龍王神社	八幡神社	八幡神社	周敷神社	高忍日賣神社	湊三島大名神社	伊豫豆比古命神社	嚴島神社	愛媛県女子神職会	松山支部	愛媛県神社庁	金、 壹萬圓也	神杜庁	湯嶋天神社	金、 参阡圓也	菊池 國興 殿															
	善家祐二殿	清家貞文殿	清家貞宏殿	井上初美殿	後藤正宜殿	渡部定詔殿	長曾我部昭一郎殿	柳原宰殿	愛媛県神社庁	松山支部	愛媛県神社庁	森原正康殿	綾延神社	嚴島神社	湊三嶋大明神社	高忍日賣神社	八幡神社	清家貞文殿	後藤正宜殿	渡部定詔殿	柳原正康殿	森原正康殿	愛媛県神社庁	常磐井守道殿	八西支部 八幡分會	都築芳憲殿	宇和支部殿	三輪田泰生殿	三輪田泰生殿		

第五十二回定時総会 御祝

新年互礼会 御祝

各事業に御協力下さいました皆様ありがとうございました。

青年会御卒業

定時総会に於いて、会則により卒業を迎えられました方々を御紹介いたします。

高忍日賣神社 禰宜 (元副会長)

後藤 正幸

河崎神社 宮司 (元理事)

柳原 康尚

村山神社 権禰宜

古川龍太郎

大浜八幡大神社 権禰宜

檜垣 敬暢

阿沼美神社 禰宜

田内 逸啓

金刀比羅神社 禰宜

大谷 直士

雄郡神社 禰宜

高市紀子

長年に亘り当会の諸活動に御尽力賜りまして誠にありがとうございます。会員一同感謝申し上げます。今後尚一層の御指導と御鞭撻を賜ります様御願ひ申し上げますと共に益々の御活躍を御祈念申し上げます。

新入会員紹介

石鎚神社 権禰宜

田窪 芳弘

伊豫豆比古命神社 権禰宜

長曽我部 義延

新しく神職として入会された方です。一緒に愛媛県神道青年会を盛り上げていきましょう!!

御案内

研修旅行

〔日程〕令和七年一月二十七日(月)・先負

〔場所〕東京方面(詳細は後日)

〔会費〕二万円/名(当日徴収)

※都内交通費・食事は現地支払いのため御用意願います。東京各地を研修しますので是非多くの参加を御願ひします。

令和六年度神道青年全国協議会夏期セミナー

〔主 題〕彼を知り己を知る

〔日 程〕令和六年八月二十二日(木)・先勝

〔内 容〕別紙の要綱

〔会 費〕四千元/名



御成婚

風伯神社

宮司 花谷

望 空

去る令和六年三月十日、伊曾乃神社宮司堀川修巧先生を斎主として、風伯神社にて神前挙式を行いました。是より先、夫婦二人で力を合わせてより一層励んでまいりますので、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しく御願ひ申し上げます。

研修旅行は東京に行きますので奮っての御参加を御願ひ致します。